



平成 26 年 7 月 15 日

各 位

会 社 名 内外トランスライン株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 常 多 晃  
(コード番号：9384 東証二部)  
問 合 せ 先 取 締 役 三 根 英 樹  
経 営 企 画 部 長  
(TEL 06-6260-4800)

## 特別損失の計上、連結業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、平成 26 年 12 月期第 2 四半期連結会計期間において、特別損失を計上するとともに、平成 26 年 2 月 10 日に公表いたしました平成 26 年 12 月期第 2 四半期連結業績予想及び通期連結業績予想を修正することとし、あわせて平成 26 年 12 月期第 2 四半期の配当予想について下記のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

##### (1) 連結子会社にかかるのれんの減損（連結）

当社連結子会社 NTL-LOGISTICS (INDIA) PRIVATE LIMITED（インド・ニューデリー）にかかる売掛金の回収遅延に伴う貸倒引当金の計上（貸倒引当金繰入額 274 百万円）を考慮し、のれんの回収可能性を検討した結果、のれんの減損損失 294 百万円を当第 2 四半期連結会計期間に計上する見込みとなりました。

##### (2) システム開発費返還請求訴訟にかかる特別損失（連結、個別）

###### a. 当社返還請求額の特別損失計上

当社は、平成 21 年 9 月 1 日、東京地裁に対して、当社基幹システム開発元を相手に債務不履行による既払い金返還請求訴訟を提起しておりましたが、平成 26 年 6 月 26 日に同地裁で判決があり、たいへん遺憾ながら、第 1 審においては当社の主張は認められないことになりました。当該判決については、当社は到底服しがたいものであり上級審にて争う手続をとっておりますが、会計上は保守的見地から、当第 2 四半期連結会計期間において、貸倒引当金 90 百万円を計上する見込みとなりました。

###### b. 開発元反訴にかかる訴訟損失引当金の計上

当社は、上記訴訟に関し、開発元より残存経費の支払請求訴訟を提起されておりましたが、当該訴訟についても平成 26 年 6 月 26 日東京地裁判決は当社の主張を受け容れないものとなりました。上記 a. と同様に上級審にて争う手続をとっておりますが、当該判決を受けて、保守的見地より訴訟損失引当金 82 百万円を計上する見込みとなりました。

##### (3) 投資有価証券評価損の計上（連結、個別）

当社所有の株式につき当第 2 四半期連結会計期間において、投資有価証券評価損 102

百万円を計上、特別損失処理する見込みとなりました。

(4) 関係会社株式評価損の計上 (個別)

当第2四半期連結会計期間において、当社連結子会社 NTL-LOGISTICS(INDIA) PRIVATE LIMITED 株式約 500 百万円の評価損を計上する見込みとなりました。

2. 連結業績予想の修正について

(1) 平成 26 年 12 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 26 年 2 月 10 日公表)	百万円 9,000	百万円 600	百万円 600	百万円 400	円 銭 74.79
今回修正予想(B)	9,600	330	330	△400	△74.79
増減額(B-A)	600	△270	△270	△800	—
増減率(%)	6.7	△45.0	△45.0	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 25 年 12 月期第 2 四半期)	7,499	470	510	307	58.40

(2) 平成 26 年 12 月期通期連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 26 年 2 月 10 日公表)	百万円 18,500	百万円 1,300	百万円 1,300	百万円 850	円 銭 158.92
今回修正予想(B)	19,000	1,100	1,100	100	18.70
増減額(B-A)	500	△200	△200	△750	—
増減率(%)	2.7	△15.4	△15.4	△88.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期)	16,796	1,142	1,204	729	137.81

(3) 修正の理由

a. 当第2四半期(累計)連結業績予想

(a) 売上高につきましては、当社グループの主力商品である輸出混載輸送が復調の兆しを見せはじめたのを主要因として、年初より計画を上回って推移しており、当第2四半期(累計)において当初予想を上回る見込みとなりました。

(b) 一方、販管費において、当社連結子会社 NTL-LOGISTICS(INDIA) PRIVATE LIMITED における売掛金の回収遅延に伴う貸倒引当金の計上(貸倒引当金繰入額 274 百万円)により営業利益は公表値を下回る見込みとなりました。

(c) 経常利益についても同様の理由により公表値を下回る見通しであります。

(d) 四半期純利益につきましては、上記に記載いたしました特別損失の計上を理由として、当第2四半期において 800 百万円減少する見込みとなりましたので上記のとおり修正することといたしました。

b. 当期通期連結業績予想

通期連結業績予想につきましても、売上高は順調に推移する見込みであるものの、インド現地法人の貸倒引当金の計上により販管費が大幅に増加し、また、のれんの減

損、訴訟に係る引当及び投資有価証券評価減による特別損失を計上することにより、当期純利益は大きく減少する見込みとなりましたので上記のとおり修正をいたしております。

### 3. 配当予想の修正について

#### (1) 配当予想の内容

1株当たり配当金			
基準日	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (平成26年2月10日公表)	12円50銭	20円00銭	32円50銭
今回修正予想	13円00銭	20円00銭	33円00銭
当期実績			
(ご参考) 前年同期実績 (平成25年12月期)	12円50銭	20円00銭	32円50銭

#### (2) 配当予想修正の理由

当社は、株主の皆様への安定した配当の維持とともに、経営基盤を強化し積極的な事業展開のために内部留保の充実を図ることを基本方針としております。

つきましては、当事業年度においては上記のとおり一時的に利益水準が大きく低下することとなりますが、業績は順調に推移しており、単年度収益に左右されることなく長期的な当社の成長に合わせた利益還元を実施することが適切であると判断し、上記の配当予想に修正いたしました。

(注) 業績予想、配当予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上